（別紙4）　　　　　　　令和　2　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1173100304		
法人名	(有)ヘルパーステーション		
事業所名	(有)ヘルパーステーションあにもの森		
所在地	埼玉県熊谷市野原135-6		
自己評価作成日	令和3年2月20日	評価結果市町村受理日	令和3年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和3年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は、周りが緑豊かな地域の中に心温まるログハウス風のつくりとなっています。室内もふんだんに木を使い懐かしい暖かい雰囲気でお過ごしいただけると思います。敷地内に有料老人ホームと喫茶室など素敵な建物が私たちの目を楽しませてくれることでしょう。スタッフの一人ひとりが、利用者様と真剣に向き合い、自立を支援することを実践しています。年明けから緊急事態宣言が発令されました。コロナウィルス感染拡大に伴い家族様の面会を制限させていただきましたが、個人的に、オンラインでのご面会や施設でのイベントや日常の様子をラインで個別に家族様へ送ったりもいたしました。大変喜んでいただきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・法人理念の下、年単位の事業所目標と3か月単位の職員共通目標が作られ、管理者共々その実践状況に対する振り返りが行われ、経験豊富な職員と新人職員が互いに教え合い、利用者それぞれの行動の理由や意味・目的を理解し、本人本位の適切な支援の向上が図られている。
・運営推進会議は多方面の参加を得て開催され、運営に活かされてきたが、コロナウイルス禍で開催が困難となり、事業所報告を会議のメンバーに送り、意見等を伺うことで代替えとされている。
・目標達成計画については、年2回の避難訓練・通報訓練と共に、種々の効果的な対応策が確認され、火災と風水害の対応マニュアルも作成され、目標達成への取り組みが伺える。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員たちで作り、毎朝、職員全員で復唱しています。	法人理念の下、年単位の事業所目標と3か月単位の職員共通目標が作られ、管理者共々その実践状況に対する振り返りが行われ、ベテラン職員と新人職員が互いに教え合うなど、利用者支援の質の向上が図られている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に加入しているが、ここ一年は活動していない	熊谷市拠点の女子ラグビーチーム（アスカル熊谷）に協賛されるなど、地域の振興に協力されている。また、コロナ過で交流ができない中、加入されている自治会の回覧板などから、地域の情報を把握するように努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の見学会の受け入れや、交流を通して認知症の人への理解や支援方法もお伝えしている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では主に施設の状況の報告と外部評価の報告を行っています。地域包括や自治会長の意見や要望にもお応えするよう努めています。	地域包括支援センター･民生委員･自治会長･家族代表などの参加を得て開催され、運営に活かされてきたが、コロナ禍で困難となり、事業所の報告を会議のメンバーに送り、意見等を伺うことで代替えとされている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者には必要時毎に意見や疑問等をお聞きしている	市の担当者への報告や質問、相談については適宜回答を得ており、コロナ禍においても、感染症予防対策に必要な情報やアドバイス、マスク、消毒薬等の必需品の提供もなされており、適切な関係が構築されている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が、身体拘束についての知識を定期的に学び理解を深めている。身体拘束廃止委員会は毎月開催して一人ひとりの拘束解除を検討している。	「職員研修と身体拘束廃止委員会」が毎月行われ、「同意が得られれば継続しても」の意識を持たないように学習と検討が行われ、説明や経過観察などと共に、解除のための再検討が行われ、記録も作成されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員全体が、虐待防止についての知識を定期的に学んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体が、権利擁護についての知識を定期的に学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に説明し納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、お客様からの意見や、要望を受け入れている。	利用者の様子を事業所HPやYouTubeへアップしたり、LINEで顔を見て話していただくことなどで利用者の様子を知って頂き、洗濯物を取りに来られる家族が多いのを利用して意見や要望を汲み取るように努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員参加の会議を月に1回定期的に設けている	全職員参加の会議が毎月行われ、意見や要望はリーダー会議を経て役員同席の会議へ上げられ、活かされている。また、職員のアイデアで声掛けチャンピオンを選出するなど、モチベーション向上に繋がる活動が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に従業員の給料水準や労働・やりがいを聞くようにしている。随時、努めているが、年末に個々に努力点や目標、展望を書いて提出し、職員の考えていることを把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修の機会や、外部からお招きしたり施設内での勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH交流会に参加を心がけているが、コロナウィルス感染予防のため、今年度は開催されていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、ご本人からのお話を聞き取りして、要望や考えていることや不安なことを解決できるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様から日頃から困っていることをお聴きして安心してご利用していただけるよう、コミュニケーションを通して信頼関係を構築するよう心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度サービスの内容や支援目標を確認し、サービス対応を行っている。他のサービス利用の導入を行ったことはまだない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様へ馴染みの関係が構築できるよう日々努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の様子を報告したり、お元気だったころのお話を聞いて、職員全員に情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オンラインの面会で家族様の顔が見られるように対応している	家族･知人等の協力を得ての外出や外食などで馴染みの関係継続に繋げて来られたが、現在はオンライン面会などの対応がなされており、コロナ禍の様子を見ながら、場所を決めての面会の検討がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席や、くつろぎ時の席や、部屋割りにも配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ショートスティを利用しているお客様もいらっしゃる。在宅での生活を支援させていただいています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、お客様への思い、意向を把握するように努力している。ご本人への確認が困難な場合には家族様や医療面からも考慮に入れてその人にその人の気持ちを把握する	利用者からは辛抱強く傾聴し、家族からは個々の情報を得て共有し、1人ひとりの表情や仕草を観察することで、それぞれの行動の理由や意味･目的を理解し、本人本位の適切な支援がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調時に把握することはもちろん、ご本人からも、ご利用開始後、本人とのコミュニケーションから、面会時の家族様からも聴き取りさせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に窮したり、報告等、様子観察・状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族様の気持ちや思いを反映できるように職員間で話し合い介護計画作成している	利用者担当･管理者･ケアマネジャーを中心にモニタリングが行われ、家族や職員、医師の意見も得てカンファレンスが実施され、現状に即した介護計画が作成されている。また、機会を捉えて、家族への説明がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を記入し、それを職員に毎日プリントアウトし、すぐに読めるような場所においてある。また、ヒアリハット等すぐに目に入る場所に置き、業務前に読むことになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態が変わったときには担当者会議を開催してケアの方法を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の図書館利用で、興味のあるものを借りてきて、視聴して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人様と家族様の意向に沿った形で継続している。	利用者と家族に往診対応の協力医療機関か従来の掛かりつけ医を選択していただき、受診は家族協力を基本に、連携書を作成し持参いただくことで、利用者の状況を医師に伝え、適切な受診に繋げられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に異常の早期発見と早期対応に心がけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設の様子をお知らせするサマリーを提出し、退院時にはHPのMSWにご協力いただき実調に行き状態の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設契約時に看護体制と終末ケアの体制を家族様に説明して同意をいただいている	入居時に、利用者と家族に対して、終末期に向けての事業所の方針とできることの説明がなされ、重度化した場合は、家族を交えて話し合いを重ね、医療の訪問看護への移行の合意をいただき、利用者と家族にとって、最適な支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の研修と決定事項は定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・通報訓練の実施	年2回の避難訓練・通報訓練が併設の事業所と合同で行われており、頭への装着ライトの有効性や風呂の水張りなど効果的な対応が確認されている。また、火災と風水害の対応マニュアルが作成され、備蓄も備えられている。	年2回の訓練が行われ、効果的な対応策も確認されています。火災と風水害の対応マニュアルも作成されていますが、地震の場合の対応マニュアルの作成が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重プライバシー保護には職員全員が配慮している	利用者が他人に知られたくないことには、言葉使いを含めて配慮がなされている。また、コロナ禍の対策として、利用者の様子が事業所HPやYouTubeなどへアップされ、利用者家族の了解が取られ好評を得られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からお客様との会話の中からお客様の思いを発していただけるような取り組みを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の中で選択肢は少ないが、できる限りお客様の気持ちや希望に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様から持ってきてただいた服や好きな色のものを身につけていただけるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回程度だが、昨年からみそ汁つくりを実施している。	給食委員会により利用者の嗜好が反映された献立が併設の厨房より提供され、外食ができない中、利用者に味噌汁作りやおやつ作りを楽しんでいただき、敷地内のパン工房の利用と共に、食事の多様化に努められている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量を把握して記録している。状態によっては水分量、尿量等も計測している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、必要な人には仕上げまたは、全介助で支援している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常にその人の残存能力の把握をし、安全に自立するよう支援している	日中は、１人ひとりの残存能力を把握し、1歩でも歩けたら、できるだけトイレ排泄を支援され、夜間は、各利用者に最適な方法での対応が行われ、適切な支援により、リハビリパンツが要らなくなるなどの事例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物、運動、おなかのマッサージを心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決められているが、その日以外でも希望すれば対応できるよう心掛けている	週2回の入浴を基本に、利用者の希望をできるだけ叶えた対応が行われており、入浴剤での全国3大温泉巡りや季節湯を楽しまれ、拒否者にはタイミングを変えるなどの工夫で対応をされている。またリフト浴も備えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家庭での習慣や、健康状態に応じて休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が内服している薬に対しての理解はその都度看護師より指導を受けている。症状についても変化等は報告を上げるよう指示している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までお好きだったことや就業の内容を家族様たちからお聞きしてレクや軽作業時に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩棟には随時行けるよう、要望があればお応えできるように心がけている。お花見等、普段いけない場所でも行けるよう計画している	樹木の茂る広大な敷地は、敷地内での散策やテラスでの外気浴などを楽しむことができる。また、ツアーコンダクターの経歴を持つ職員によるテレビやYouTubeでの外国の映像や、以前家族と尋ねられた処の風景を見て、旅行気分を味わっていただいている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物をする場所はないが、外の自販機などで好きな飲み物を買えるような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には応じている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、お客様が心地よく過ごせるよう、清潔を保ったり、壁への装飾も季節感を出したりしている。	広々として天井が高く、車椅子が余裕を持ってすれ違える共用空間には、利用者と職員の共同製作の壁画などが飾られ、利用者は思いおもいの場所で寛がれている。また、庭園は鉢植えの植え込みや、さつまいもの収穫などが楽しめる場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席のほかにリビングにはソファーもしつらえており、仲良しで座ったり、食後の喫茶室へのコーヒータイムも楽しまれている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と協力し在宅から継続した生活が送れるよう配慮している。	馴染みの身の回り品や家具、写真などが自由に持ち込まれ、生活習慣に合わせた居室が作られ、スタッフルームから各居室の入り口に目が行き届く配置となっている。また、職員により共用空間共々清潔に維持されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内にリハビリコーナーを設置し、平行棒は誰でも好きな時に訓練できるようになっている。		

（別紙4（2））

事業所名：（有）ヘルパーステーション

作成日：令和 3 年 4 月 2 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49 (18)	日常的な外出が少ないし計画性がない。 コロナ禍でも、行ける場所を探していない	・園庭などのさんぽの機会をふやす ・施設外への外出の機会をつくる	・こまめに園庭への散歩に誘導 ・安全に外出できる方法と機会を提供	12ヶ月
2	35 (13)	現在、火災時の災害時の訓練・手順等の訓練は実施していて、マニュアルもあるが、地震の訓練はやマニュアル、シュミレーションはしていない。	地震時の職員の動きのマニュアル作りと訓練	① マニュアル作成 ② 訓練	12ヶ月
3					6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

入間広域市町村圏組合 介護 3.4.-7 受付

注）項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。